



高き理想

新聞を読もう、新書を読もう

皆さんは新聞を読んでいますか？新聞を取っていないご家庭もあると思いますが、各教室には山形新聞が毎日届いています。これは、地域創生をテーマに「1学級1新聞」で若者が新聞に親しめる環境づくりを目指し、山形新聞が協賛企業を募り行っている事業です。

授業でも「新聞を読もう」と言われると思います。この「教育に新聞を」という考えは、NIE（Newspaper in Education = 「エヌ・アイ・イー」）といい、学校などで新聞を教材として活用する活動です。1930年代にアメリカで始まり、日本では85年、静岡で開かれた新聞大会で提唱されたそうです。近年では、ほとんどの人がスマートフォンを持っている状況なので、気軽さと言えば「ネットニュース」のほうが利用しやすいでしょう。もちろん新聞と同じ内容も載っていますし、記事によっては動画もありますので、内容も充実しています。即時性もあるので、気になっていたスポーツの結果もすぐに知ることができますよね。



山形新聞を読む3年生

では、なぜあえて「新聞を読もう」なのでしょう。ひとつ目は様々な分野の記事が載っているためです。ネットは見たい記事だけに偏る傾向がありますが、新聞は、興味がない記事も視野に入ってきます。目にしたことで、新たに興味がわくこともあります。忙しい西高生にとっては、見出しだけサッと見るという読み方も良いでしょう。ふたつ目は、一方的な意見ではなく、賛成、反対両方の考えが載っている点です。一紙だけではなく複数読めると、なお良いでしょう。（英字新聞や全国紙などは図書館でチェックして下さい。）

多角的な視点で見る・考えるということは、入試の小論文や面接にも役立ちます。推薦を考えている人は特に、今のうちから新聞を読んでおきましょう。入試のためだけに急に読むのではなく、未来の自分のために日ごろからほんの少しの時間でも新聞を読み、教養ある大人になってほしいものです。

また、関係する話題の「新書」を読むのもお勧めです。「新書」はB6判よりやや小型の片手で広げられるような教養書です。政治や経済、社会時評、歴史や言語、自然科学分野など様々な分野の入門書として刊行されることが多く、知りたい分野の知識や要点を比較的手軽に得ることができます。

教室や図書館にある新聞を、そして図書館や書店にある新書を手にとってみましょう。新しい発見が待っていますよ！



(上)
図書館にある英字新聞。入口から左手にあります。

(左)
図書館の新書の棚と新聞コーナー

内容についての質問やご意見は
進路指導課 竹田 までお知らせください。